

5.7 能登半島縦貫有料道路 NO.26 被害状況及び復旧対策

5.7.1 能登半島縦貫有料道路 縦-26 被害状況

(1) 被害状況

高さ約 18m の高盛土区間で延長約 100m にわたり上り車線が内浦側（または、東南東側）に崩壊し、崩落土砂は直下部を流下する谷部を閉塞した。

(2) 復旧方針

盛土の靱性を向上させるため、3 段盛土の内下 2 段にジオテキスタイルを用いた補強盛土工とした。また、盛土内の排水性を向上させるため、暗渠排水工を施工する。



図 5.7.1-1 NO.縦-26 位置図



写真 5.7.1-1 NO.縦-26 被災後写真

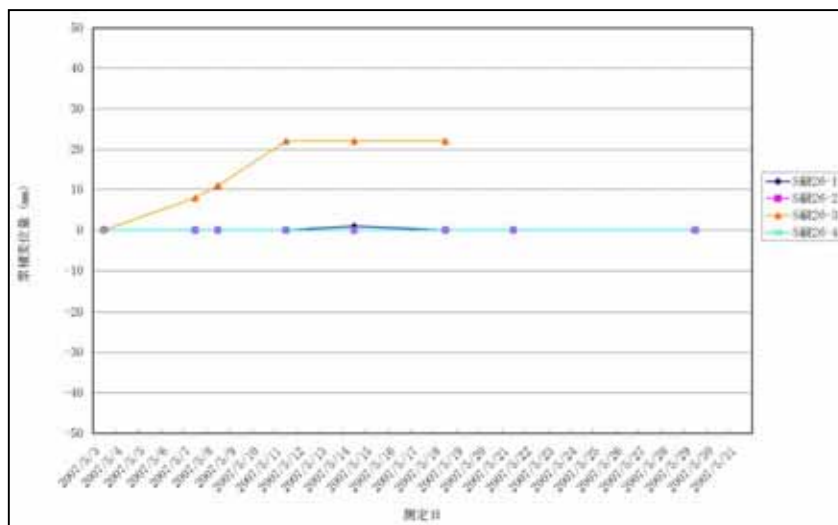


写真 5.7.1-2 NO.縦-26 応急復旧後写真



— 盛土下面 — 表土下面 — 強風化岩下面

写真 5.7.1-3 NO.縦-26 コア写真



観測期間：5/3～5/29

S縦 26-3 の舗装亀裂が大きく変位しているが、オーバーハング部の亀裂であるため、迂回路には影響なし

5/21 以降は S 縦 26-3 の箇所にブルーシートがかけられたため観測不能

その他の亀裂に大きな変動はない

図 5.7.1-4 NO.縦-26 As 舗装亀裂の簡易計測

ボーリング柱状図

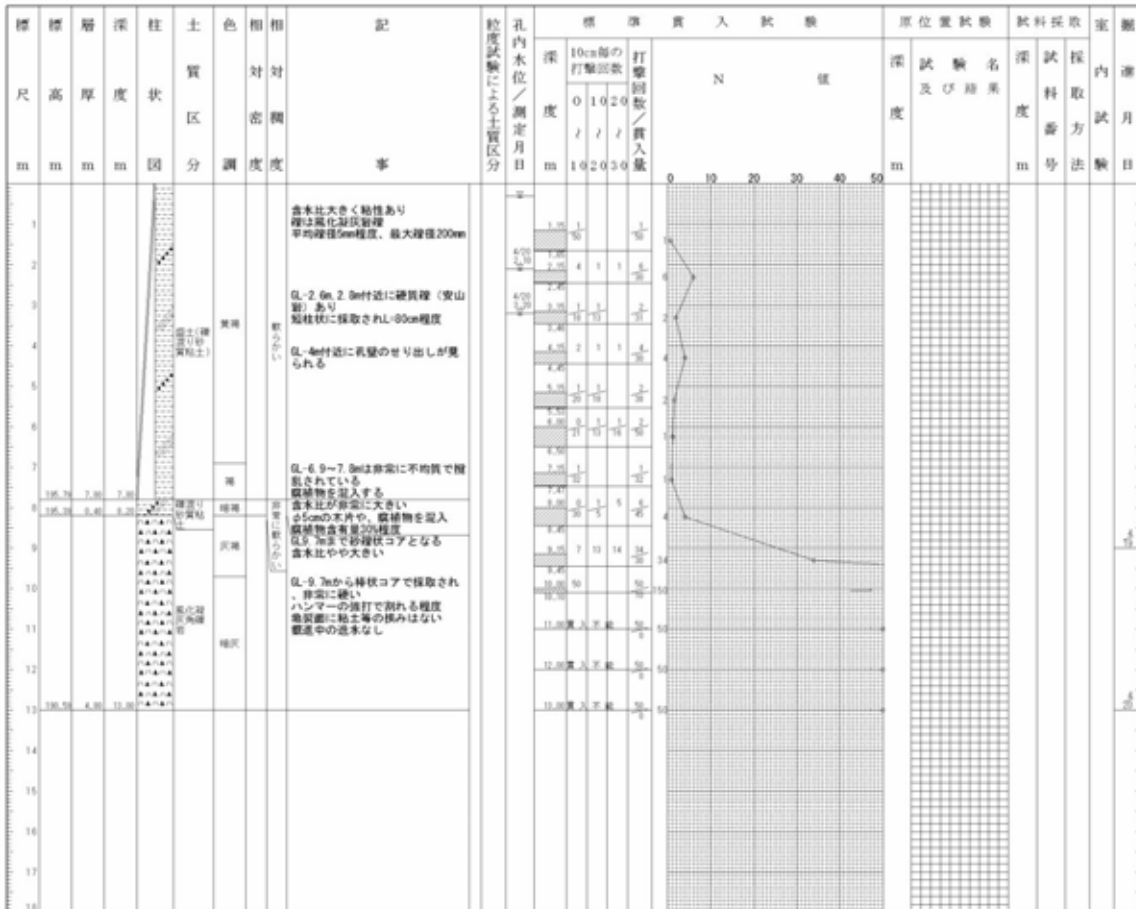
調査名 能登半島縦貫有料道路 災害復旧工事 地質調査業務委託 その8

事業・工事名

ボーリングNo. 5 5 3 6 5 6 9 8 0 0 0

シートNo.

ボーリング名	BV縦26-1	調査位置	七尾市中島町小牧～田岸 地内	北緯	37° 09' 42.0000"
発注機関	石川県道路公社	調査期間	平成19年 4月19日～平成19年 4月20日	東経	136° 51' 19.0000"
調査業者名	アルスコンサルティング株式会社 電話 076-248-4004	主任技師	玉村 清文	現代理人	市川 健
孔口標高	KBM 203.59m	方	北 0° 西 90° 東 90° 南 180°	コ定者	玉村 清文
総掘進長	13.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	ボーリング責任者	大谷 勉
		使用機種	試錐機 YEM-05 エンジン ヤンマーNEADS型	ハンマー 落下用具	半自動型
				ポンプ	MS-413



BV縦26-1 : L=13m

図 5.7.1-5 NO.縦-26 ボーリング柱状図

5.7.2 NO. 縦-26 復旧対策

(1)

- ①崩壊した盛土土塊を一旦撤去し、復旧盛土下部に補強土盛土工を実施する。上部は現地発生土を改良し盛土を行う。
- ②盛土補強材としては、ジオテキスタイルを使用する。
- ③盛土内部には、浸透水を排出する排水材を敷設する。
- ④地下水排除のため暗渠工を旧沢地形に縦断的に敷設する。



図 5.7.2-1 NO. 縦-26 復旧フロー

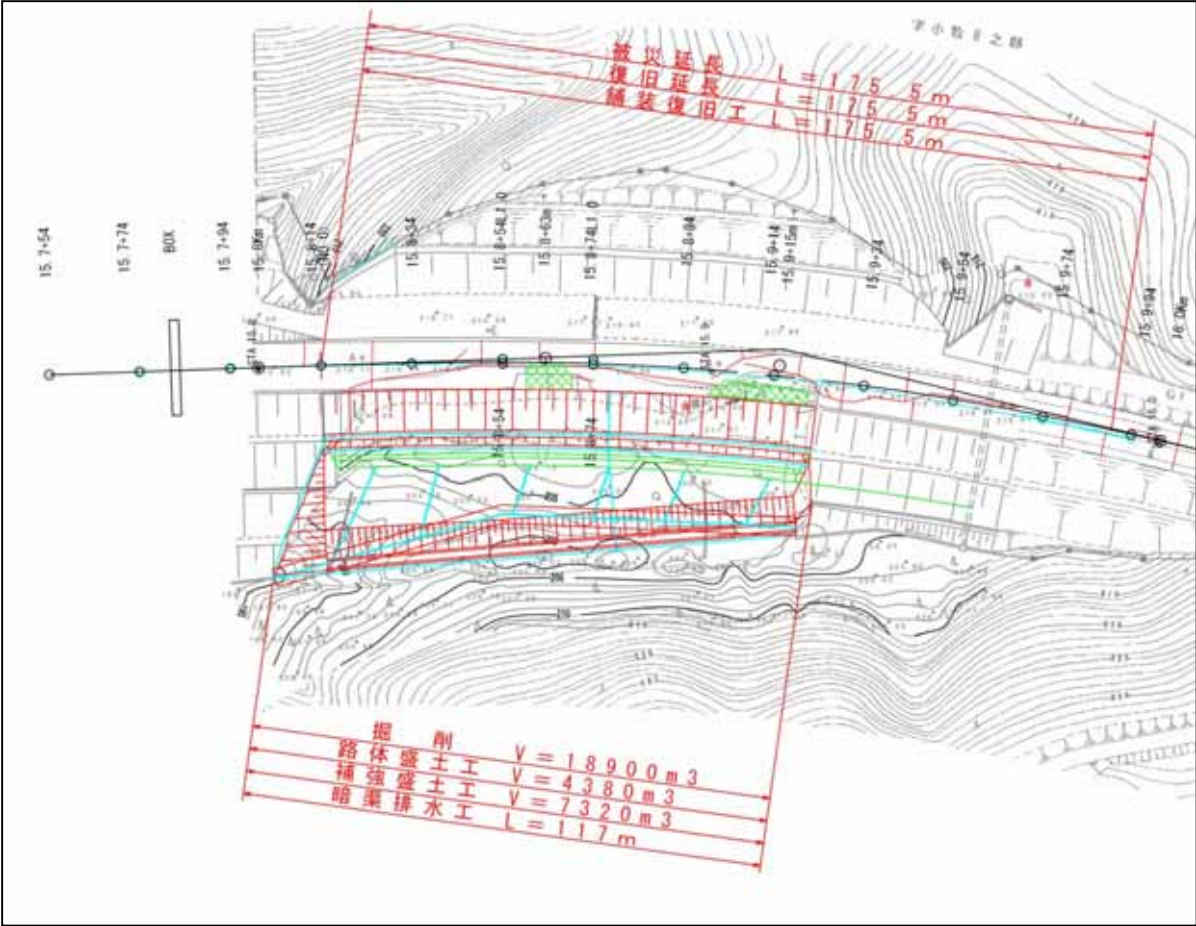


図 5.7.2-2 NO.縦-26 平面図

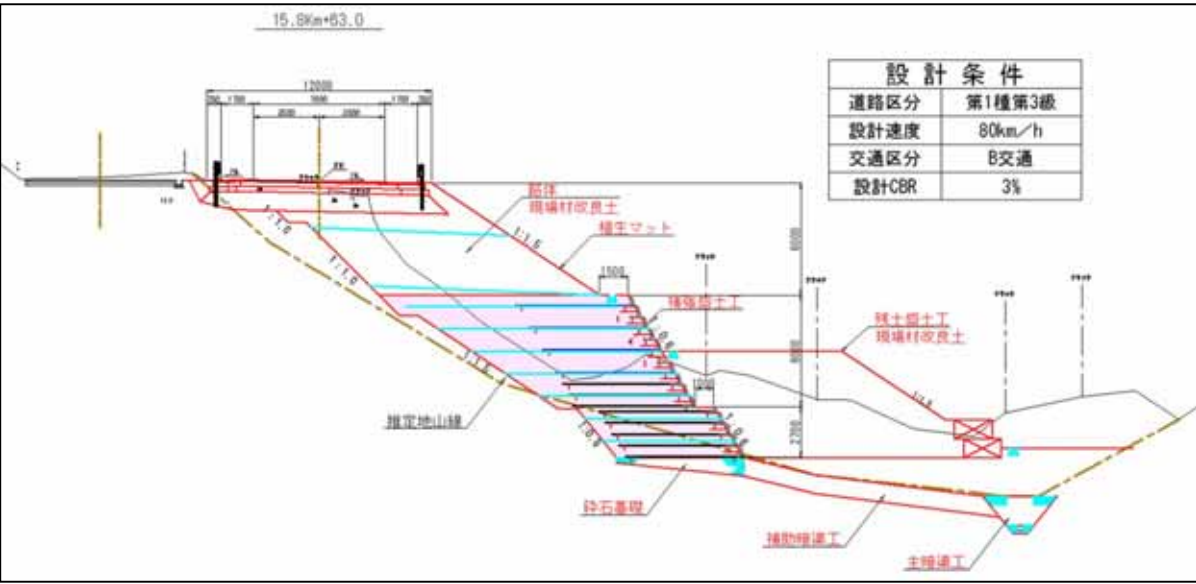


図 5.7.2-3 NO.縦-26 標準断面図

5.8 能登半島縦貫有料道路 NO.32 被害状況及び復旧対策

5.8.1 能登半島縦貫有料道路 縦-32 被害状況

(1) 被害状況

高さ約 36m の高盛土区間で延長約 65m にわたり上り車線が内浦側（または、東北東側）に崩壊し、崩落土砂は約 200m 先まで流れ出した。

(2) 復旧方針

盛土の靱性を向上させるため、5 段盛土の内下 2 段にジオテキスタイルを用いた補強盛土工とした。また、盛土内の排水性を向上させるため、暗渠排水工を施工する。



図 5.8.1-1 NO.縦-32 位置図



写真 5.8.1-1 NO.縦-32 被災後写真



写真 5.8.1-2 NO.縦-32 応急復旧後写真

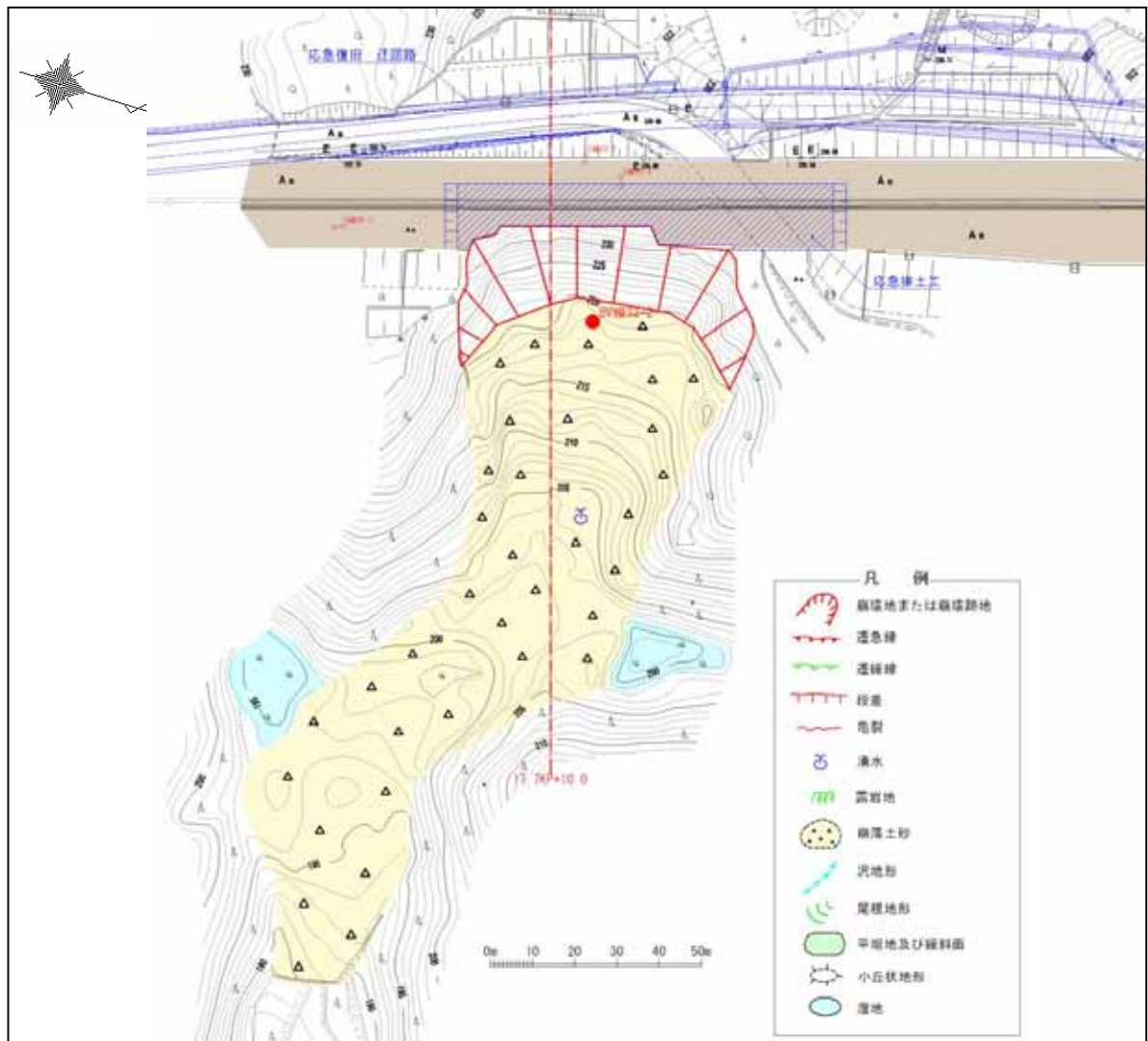


図 5.8.1-2 NO.縦-32 平面図

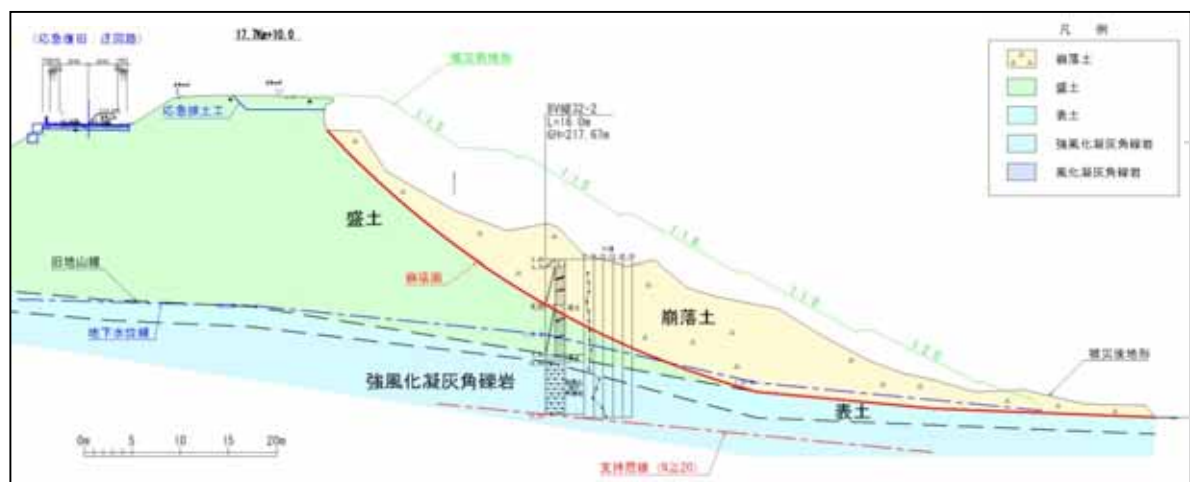


図 5.8.1-3 NO.縦-32 主断面図

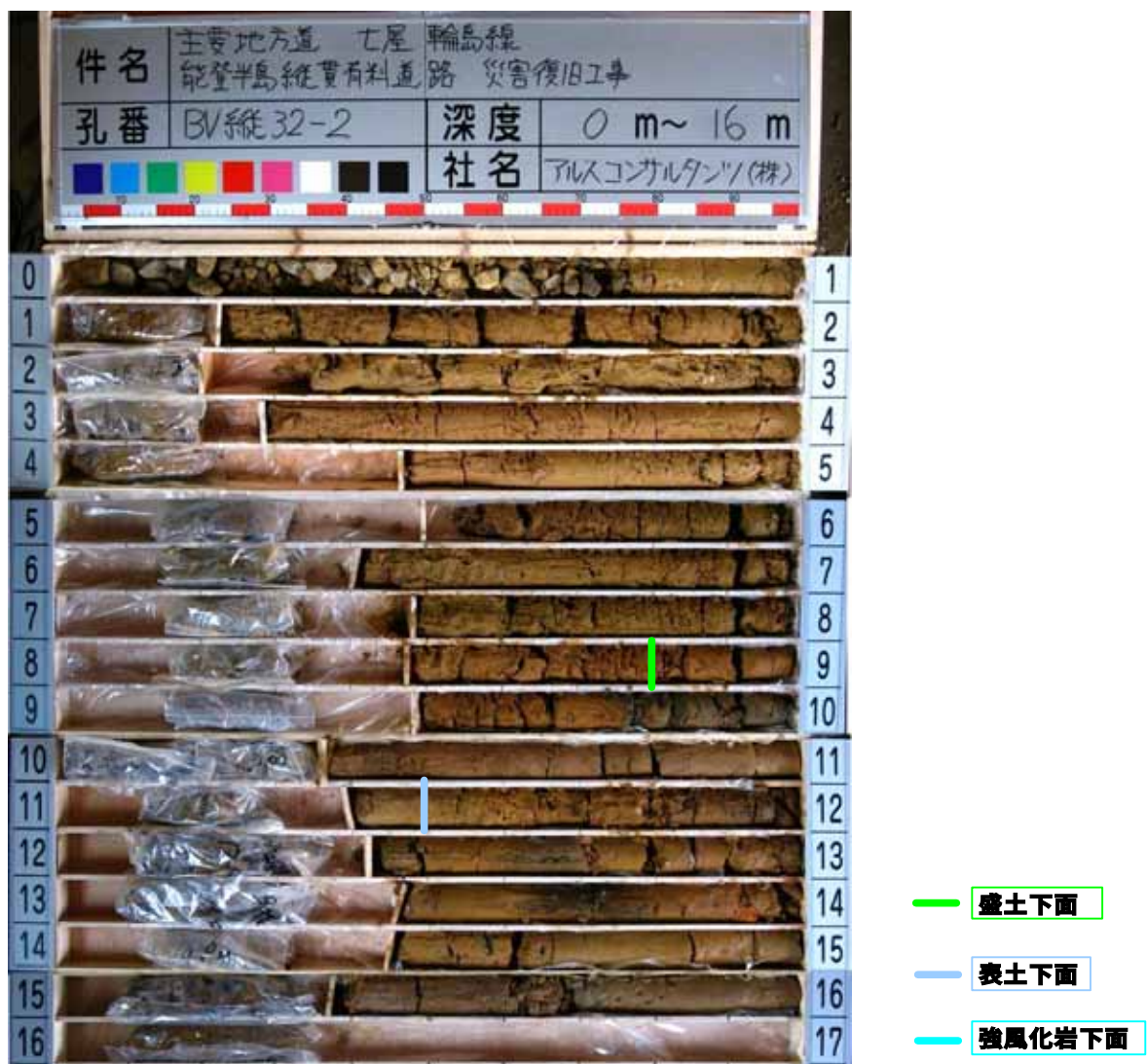
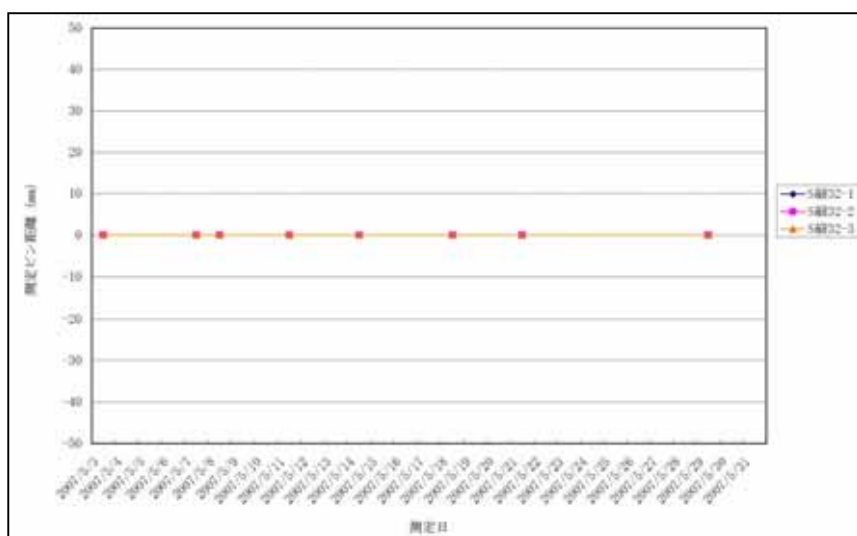


写真 5.8.1-3 NO.縦-32 コア写真



観測期間：5/3～5/29

舗装亀裂に変位なし
 地中伸縮計は数日間の観測が実施されているが変動なし

図 5.8.1-4 NO.縦-32 As 舗装亀裂の簡易計測

ボーリング柱状図

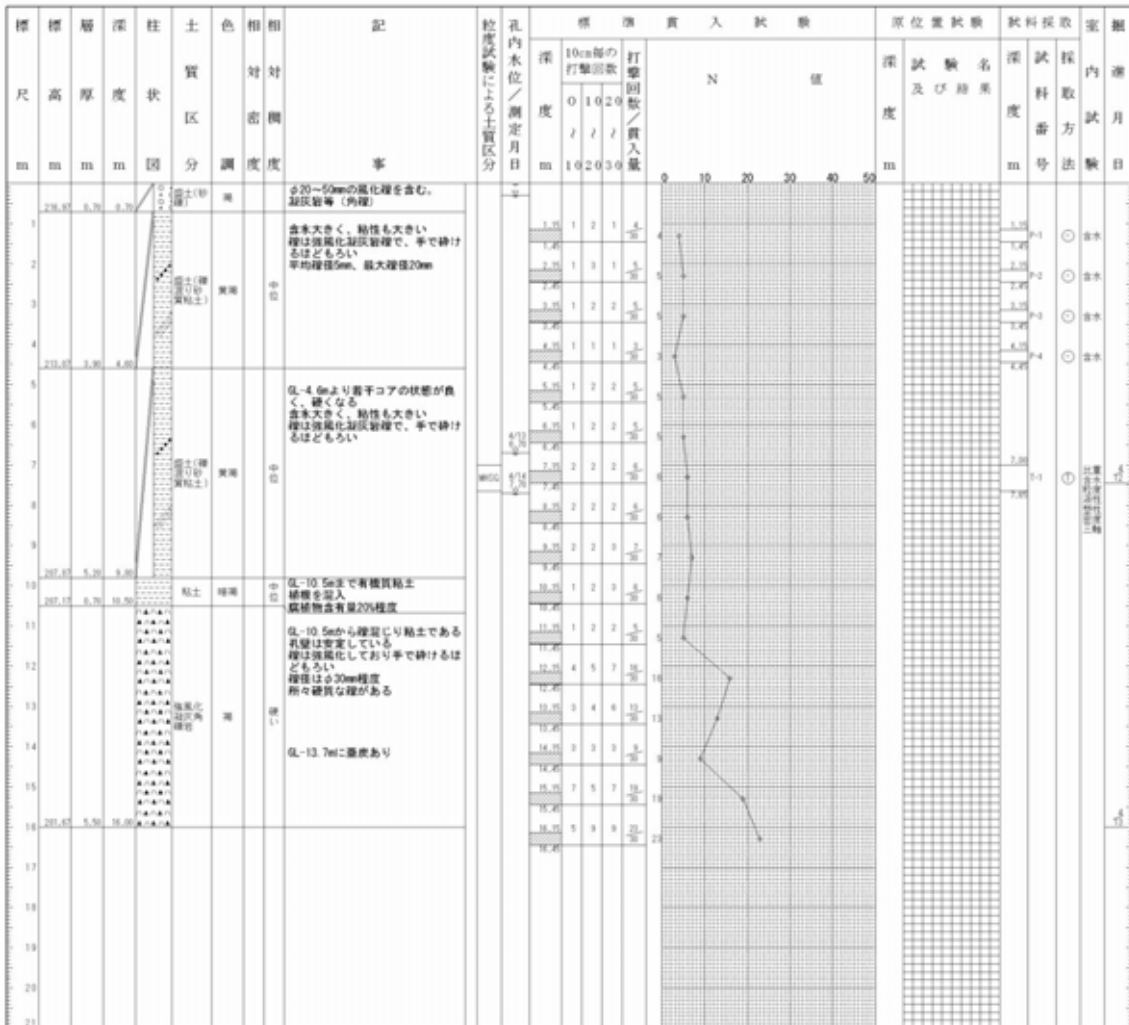
調査名 鹿児島県東部支庁 調査位置 七尾市中島町小牧～田岸 地内

ボーリングNo. 55366618000

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	BV縦32-2	調査位置	七尾市中島町小牧～田岸 地内	北緯	37° 10' 37.0000"
発注機関	石川県道公社	調査期間	平成19年 4月12日～平成19年 4月15日	東経	136° 51' 21.0000"
調査業者名	アルスコンサルティング株式会社 電話 076-248-4004	主任技師	玉村 清文	現場代理人	市川 健
孔口標高	KBM 217.67m	地盤勾配	北 0° 00' 東 0° 00' 西 0° 00' 南 0° 00'	コ定者	玉村 清文
総掘進長	16.00m	使用試験機	YBM-05	ハンマー 落下用長	コシアー
		エンジン	ヤンマー-NFAD8型	ポンプ	MS-413



BV縦32-2 : L=16m

図 5.8.1-5 NO.縦-32 ボーリング柱状図

5.8.2 NO. 縦-32 復旧対策

(1)

- ①崩壊した盛土土塊を一旦撤去し、復旧盛土下部に補強盛土工を実施する。上部は現地発生土を改良し盛土を行う。
- ②盛土補強材としては、ジオテキスタイルを使用する。
- ③盛土内部には、浸透水を排出する排水材を敷設する。
- ④地下水排除のため暗渠工を旧沢地形に縦断的に敷設する。

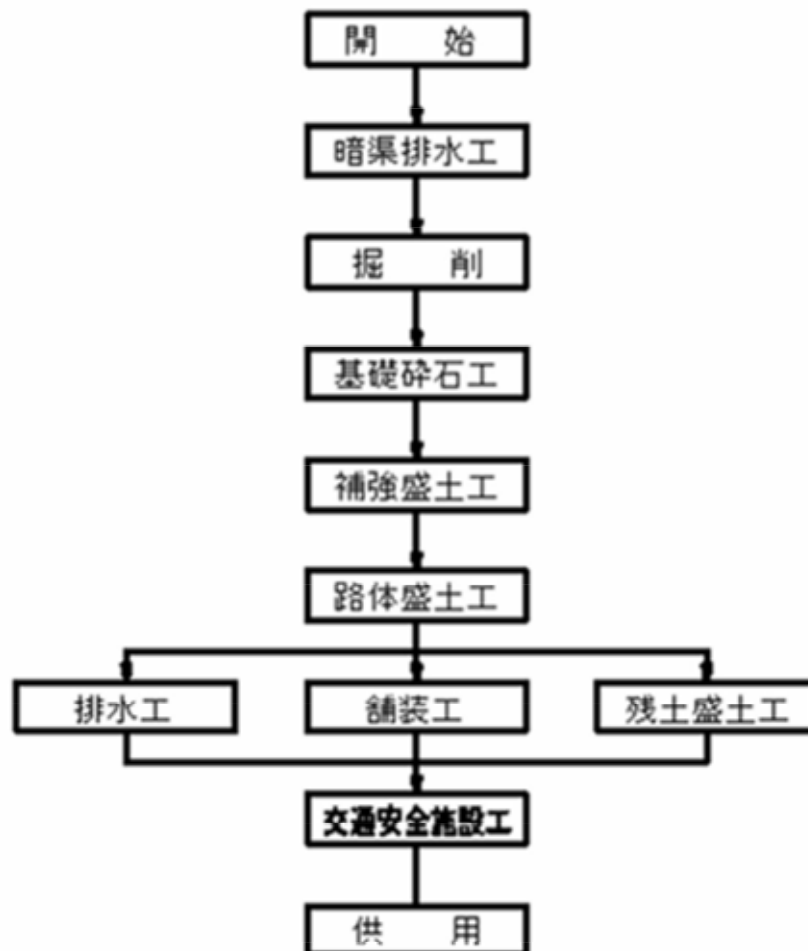


図 5.8.2-1 NO.縦-32 復旧フロー

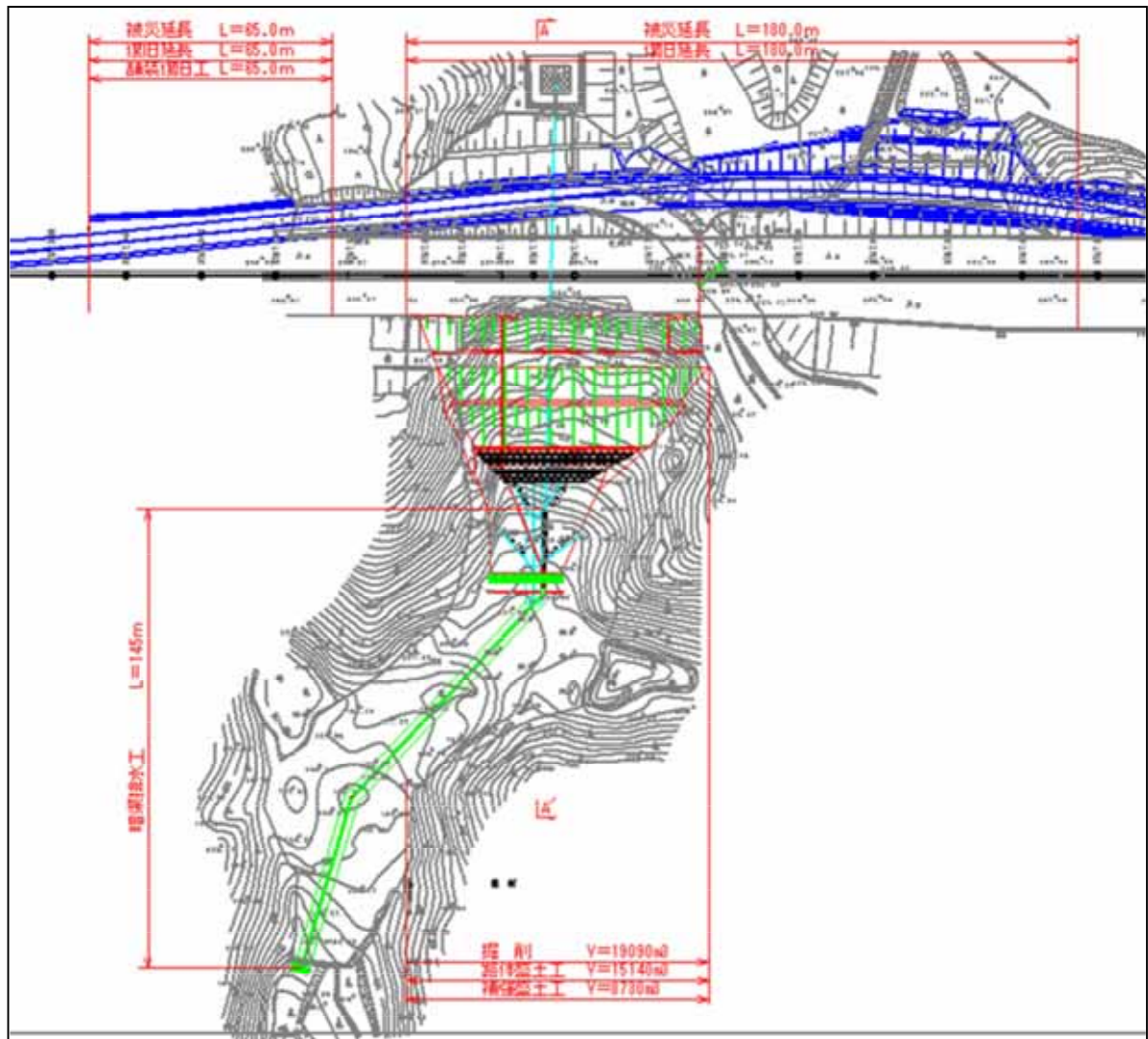


図 5.8.2-4 NO.縦-32 平面図

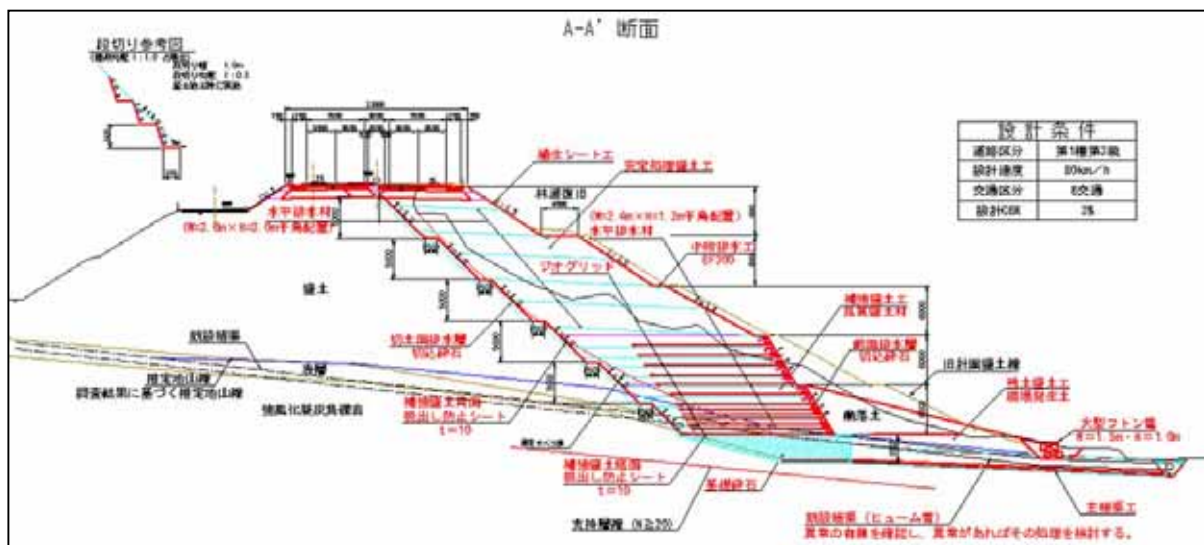


図 5.8.2-5 NO.縦-32 標準断面図